

垂水区会

水道をもう一度見直そう

SC垂水会の研修見学会

福6-垂 江藤 隆義

健康の源はおいしい空気とおいしい水とされている。約8年前の阪神・淡路大震災の時は、電気・ガスと共に水道を使えなかったことでお互いが大いに困った。

2003年度のSC垂水会研修見学会は、過去のテーマと重ならないことと、水に困った記憶から水道についてもう一度見直そうと「おいしい水、安全な水」の出前トークと水道施設見学会を検討し、垂水区内に上水道に関連する適当な会場も無かったので、上水についての質問・提言のメール先である神戸市水道局

(ittteki_chan@mb.city.kobe.jp)

と相談し、奥平野浄水場管理センター・水質試験所を借用・開催することにした。

周知のように、神戸市の上水に関連する施設は、JR神戸駅からバス三宮行きの途中、兵庫区楠谷町37-1に「水の科学博物館」、「奥平野浄水場」、「水質試験所」が集中している。この3施設の見学と出前トークを行うには時間的な制限も有り「水の科学博物館」は常時見学が可能である（「すこやか手帳」を提示すると入場料無料になる）ので割愛した。

奥平野浄水場では、中島副所長の神戸の水道施設の概要説明を聞いた後、テレメーター・テレコントロールシステムを見学した。

神戸の水道水は水源に恵まれていないので、阪神水道企業団・兵庫県水道用水供給事業から3/4は購入しており、また坂の多い町であるためにどこの家庭でも使い易い水圧で水が出るように、配水池を30メートルの高さごとに設けている等、平地にある大阪市等には無い苦労があるようだ。水をムダなく適切に配水池に送るよう有線や無線のネットワークを使って、この奥平野管理センターのコンピューターを使って24時間集中管理しているのがテレメーター・テレコントロールシステムである。3人のオペレーターが大型スクリーンに映る状況に応じて操作している様子をガラス越しに見学した。

水質試験所では、伊藤主査から、オゾン発生器を使うための有機物質の分解、活性炭によるかび臭さやトリハロメタンなどの元となる物質の吸着による高度浄水処理の追加等による水質改善の説明や、基準46項目、快適水質13項目、監視35項目等水道水質に関する94項目の測定の説明等があった。近年分析精度もppm、ppb、pptなどと向上し、微量分析が必要とされてきつつあり、空気中からの混入除去等でクリーンルーム内での分析が必要になっているようで、微生物除去も大きな問題のようであった。ヒメダカによる安全な水監視の説明があったが、サリン事故でのカナリア使用が思い出された。

最後に有本主幹による「おいしい水、安全な水」の出



貯水池からの原水や水道管からのサンプル水など54カ所からの標本が集められ、分析されている。



サンプル水を寒天培養皿に入れて、細菌類がないことを確認するための培養室。



「おいしい水、安全な水」のテーマの出前トーク。どうしたら水をおいしく飲めるかなど、すぐ試してみたい有用な話をたくさん聞いた。Q&Aも活発だった。

前トークがあった。おいしい水の基本は水温にあり、冷やして飲むのがおいしい水を飲むコツであるとか、その他硬度・遊離炭酸・蒸発残留物・残留塩素等も関係するそうだ。暑い中で参加者26名の見学・出前トークであったが、得るところが多かったのではあるまいか。